

学校体育施設開放事業のWEBプラットフォーム構築によるスマート化

- 千葉県松戸市の10小中学校にてWEBプラットフォームのトライアル運用を実施し、ペーパーレス化による自治体、学校、利用者の利便性向上、事務担当者の業務効率化の実証を行った。

事業の趣旨・概要

- 学校体育施設開放事業に特化したWEBプラットフォームを構築の上、団体登録から利用申請、報告書の提出、鍵の管理まで一元化させたモデルを段階的にトライアル運用を実施する



<学校体育施設開放事業プラットフォームの構築>

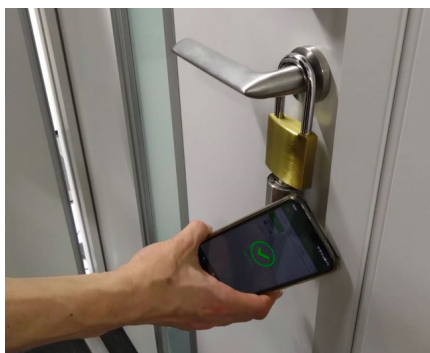
- ① 利用団体登録申請
- ② 予約申請・許可
- ③ 開放予定表の可視化
- ④ 鍵の連携
- ⑤ 利用報告書
- ⑥ 一斉通期知能



2023/03/13 ~ 02/19

曜日	13	14	15	16	17	18	19
月							
火							
水							
木							
金							
土							
日							

[予約申請画面]



[鍵とシステムの連携実証]

事業の成果

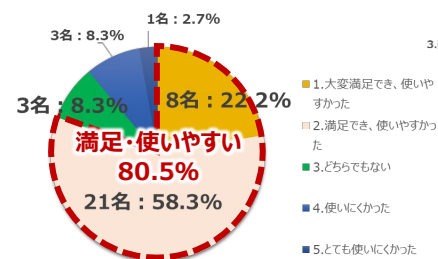
① アナログからデジタルへの意向意識の向上

- 高齢者もスマートフォンでの申請が見られ、デジタル移行が可能性あり。
- 一方、スマートフォンに対応したデザインや利用不可時間のデフォルト設定等の改善も求められた。

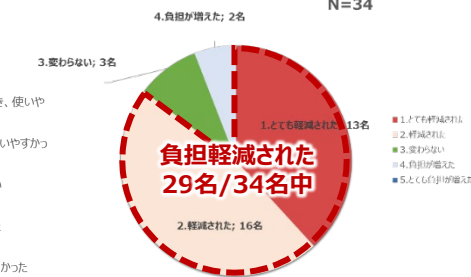
② 利便性、セキュリティ面の向上

- 鍵とシステムとの連携により、予約した時間帯のみのカギの解錠・施錠が可能となり、セキュリティ面が向上（ログも残り、時間超過の利用の見える化）
- 様々なタイプのスマートロックとの連携が可能ということも確認済みであるため、今後横展開を目指す中で自治体ごとの状況に合わせてテンキー、シリンダーなど予算に合わせた対応が可能

Q1. 本システムをご活用いただき、本システムの満足度はいかがでしたでしょうか？ N=36



Q7. 利用報告書の申請は以前と比べ軽減されましたか？ N=34



③ 利用状況の見える化による新規受け入れ可能

- 空き状況の確認が容易にでき、新規団体の受入がスムーズに実現

今後の展望

- 今後、更なるシステムの利便性向上に努めるとともに、学校ごとに異なる鍵の形状とシステムの連携について実証を進める必要がある。
- また、キャッシュレス決済機能との連携による更なる利便性の向上を目指す。